

2022 年度 第 1 回 一般社団法人日本疫学会理事会 議事録

日時	2023 年(令和 5 年)2 月 1 日(水)18:15-20:45
場 所	アクトシティ浜松 (ハイブリッド開催)
出席者	(順不同、敬称略) 理事:玉腰暁子(理事長)、井上真奈美(副理事長)、関根道和(副理事長)、岡村智教、栗山進一、若井建志、神田秀幸、曾根博仁、片野田耕太、金子聰、福島若葉、近藤尚己、村上義孝、尾島俊之、小橋元、井上茂、三浦克之、本庄かおり、郡山千早、有馬久富 第 33 回学術総会会長:尾島俊之 第 34 回学術総会会長:三浦克之 監事:横山徹爾、和田恵子 学会事務局:菊池宏幸(事務局長)、糟谷里美、吉田香

- 理事会に先立ち、玉腰理事長より、理事・監事 22 名の出席により理事会が成立していることが確認された。

<協議事項>

- 2022 年度第 3 回一般社団法人日本疫学会理事会議事録(案)は承認された。
- 2022 年度事業報告について玉腰理事長より、学術総会の開催に関する事業、会誌、研究文書等の企画、制作、編集、刊行に関する事業、調査、研究、情報の収集および提供に関する事業、人材の教育・研修に関する事業、国内外の国、公的機関、学術団体等との連絡、協力、支援、調整、連携および交流に関する事業、資格の認定に関する事業、表彰に関する事業、その他の関連する事業、その他について報告があった。以上の事業報告は 2022 年度第 3 回理事会で承認されている旨説明があった。
- 2022 年度決算報告書(収支計算書)について菊池事務局長より報告があった。事業活動収入は、58,675,534 円であった。その内訳は、会費収入 2,138 万円、会誌発行・学術総会等の事業収入 2,668 万円、その他科研費や寄附金収入である。一方、事業活動支出は、45,183,964 円であり、収支差額は、13,491,570 円となっている。
2022 年度決算報告について横山監事より監査報告があり、承認された。
- 2023 年度事業計画書について玉腰理事長より、学術総会の開催に関する事業、会誌、研究文書等の企画、制作、編集、刊行に関する事業、調査、研究、情報の収集および提供に関する事業、人材の教育、研修に関する事業、国内外の国、公的機関、学術団体等との連絡、協力、支援、調整、連携および交流に関する事業、

資格の認定に関する事業、表彰に関する事業、その他の関連する事業、その他の計画について説明があった。以上の事業計画については、2022 年度第 3 回理事会で承認されているが、修正がないことが確認された。

続いて、2023 年度予算書について菊池事務局長より説明があった。事業活動収入計は 5,909 万円（前年度決算額 5,867 万円）、事業活動支出計は 5,070 万円として計上した。収支差額は 838 万円の予算となる。以上の予算書は昨年 11 月に理事会で承認されたものに、会員管理システム費用 11 万円が追加計上された旨の説明があり、2023 年度（補正）予算案が承認された。

5. 名誉会員の候補者として前理事会で提案のあった山口直人氏を、第 7 回定時社員総会において提案することになった。
6. 次期選挙管理委員会メンバー（任期：2023 年 2 月 2 日（社員総会）から 2025 年 1 月（社員総会）まで）について検討が行われ、以下の委員が承認された。
 - 《委員長》福田吉治先生（帝京大学、委員長 2 期目）
 - 《委員》（継続）北村文彦先生（順天堂大学、3 期目）
 - （継続）桑原和代先生（慶應義塾大学、3 期目）
 - （新規）山地太樹先生（国立がん研究センター）
 - （新規）井上悠輔先生（東京大学）
7. 学会等連携推進委員会の曽根委員長より、委員会にて出された「運動疫学や栄養、睡眠などの各学会が連携して、それぞれの学術集会への参加費を会員と同額にすることによりそれぞれの集会に参加しやすくし、交流が深まり、相互に会員が増えていく利点があるのではないか」との意見を受け、まずは日本運動疫学会に働きかけ、協定締結の可能性を探っていききたいとの提案があり、承認された。また、他学会や企業、学生など等から、オンラインコンテンツを通して疫学の手法や研究デザインなどを学べるようにしてほしいという要望への対応を、今後広報委員会等とともに次のコンテンツについて、著作権の問題等も含め継続的に検討していくことになった。①『疫学の事典』に基づいた用語解説等のホームページへの掲載や動画の配信 ②プレセミナー（学術総会とは別料金）や教育講演などの教育的に優れた動画コンテンツの配信
8. 広報委員会 疫学リテラシー普及促進ワーキンググループの福島 WG 長より、『疫学の事典』のコンテンツのホームページへの掲載について、出版元の朝倉書店が書籍の電子化を検討していることから、朝倉書店の許可を得ながらそのコンテンツを利用して構築していきたいとの提案があり、ホームページの当該サイトについて、広報委員会

にも運用可能な権限を付与する方向で承認された。また、メディア連携ワーキンググループの近藤 WG 長より、一般社団法人メディカルジャーナリズム協会との連携を深め、「メディカルジャーナリズム勉強会」との合同企画を計画している旨の説明があった。それに伴う連携協定の締結について提案があり、承認された。

9. J-MICC 研究モニタリング委員の推薦について、若井理事より説明があり、提案された候補者が承認された。
10. 総務委員会の菊池委員長より、社会保険労務士との相談による次の提案があり、承認された。①就業規則の整備・改訂（病気休暇の期間や付与日数明記）②フレックスタイム制労使協定の締結 ③社会保険労務士との顧問契約（求職者の労務関係の相談、雇用契約書の見直し）
11. 選挙規程検討委員会の有馬委員長より、代議員の地域偏在について説明があり、特に大阪府を独立したブロックにするべきか検討した結果、2023 年の代議員選挙においては、大阪を従来の「近畿」ブロックのままで行うことになった。
12. その他の協議事項
 - 1) 第 35 回日本疫学会学術総会の開催地および会長について、玉腰理事長より開催地を高知、会長を安田誠史先生に依頼したいとの提案があり、承認された。
 - 2) 領域横断的連携活動事業（TEAM 事業）（日本動脈硬化学会）への連携協力について、玉腰理事長より説明があり、承認された。
 - 3) 東京大学医科学研究所 細胞リソースセンターの「研究用臍帯血の利用実態・需要に関する調査」への協力について、玉腰理事長より説明があり、承認された。
 - 4) 高校生からの入会申し込みについて、現行の入会手続きにより入会申し込みをしていただき、次年度の年会費について検討していくことになった。

<報告事項>

1. 玉腰理事長から次の報告があった。
 - 第 31 回日本医学会総会の分科会展示用ポスターを作成、提出した(12/19)。
 - 提言「オールハザード対処の専門家組織としての Japan CDC（仮称）の機能と他機関・団体との連携・共同」について理事会 ML にて意見をいただき、祖父江先生へ回答した(12/12)。

- 男女共同参画進捗状況のアンケート調査について、多様性（ダイバーシティー）促進委員会の村上委員長へ相談の上、集計・回答した(1/9)。
- 日本医学会連合「選挙管理委員会」へ桑原恵介先生を推薦した(1/19)。
- AMED データ利活用に関して、AMED 説明文書用モデル文案が AMED ホームページに掲載され、意見募集が開始されたことを理事会 ML にて周知し(1/25)、提案文書について理事会メール審議(1/30)により承認された。
- 三浦理事より、『疫学の事典』が 2023 年 1 月 1 日に発刊された旨の報告があった。
- 尾島理事より、『はじめて学ぶやさしい疫学』（第 4 版）の進捗状況について報告があった。

2. 各委員会等から次の報告があった。

- 1) 疫学リソース利用促進委員会の岡村委員長および既存疫学研究データ資源化・共有・活用ワーキンググループの神田 WG 長より、日本薬剤疫学会から「医療情報データベースを用いる研究のための Outcome Definition Repository 構築および共同運用に関する提案書」の提示があったことが報告された。
- 2) 学会等連携推進委員会の曾根博仁委員長よりこれまでの活動について報告があった。特に、若手研究者の相互交流を通じて学会間の交流を図り、若手研究者の育成とキャリア形成充実のためのプラットフォームの形成をその目的とする日本医学会連合社会部の「若手リトリート」では、桑原恵介委員が Under 40 委員として、継続的にその運営に関わっている旨の説明があった。また、第 31 回日本医学会総会におけるアンケートとシンポジウムへの協力、「部議 bb 医学会連合 COVID-19 expert opinion」改訂への協力を行ったことが報告された。禁煙推進学術ネットワークの片野田耕太 WG 長より、これまでの活動が継続的に行われていることが報告された。
- 3) 多様性（ダイバーシティー）促進委員会の村上委員長より、会員登録情報(10/3 時点)の必須項目の絞り込み、データクリーニング後、基本集計（男女比）を実施したとの報告があった。日本疫学会の男女比は 6 : 4 であり、地域別には、近畿地区はほぼ同数であった。また職種については、教育などに女性が多いことが分かった。そのほか会員の専門分野についても集計しているが、今後年齢などの基礎データも含め、将来的な公開も見据えて分析を継続していく。
- 4) 広報委員会の金子委員長より、ニュースレターの発刊等の活動報告がなされた。つづいて、疫学リテラシー普及促進ワーキンググループの福島 WG 長より、疫学

コンセプトの動画・記事に関するホームページコンテンツの更新については、若手の視点や改善すべき点、ユーザーの特性などは詳細な提案と分析を進めているとの報告があった。さらに、メディア連携ワーキンググループの近藤 WG 長より、7 月に「メディカルジャーナリズム勉強会」との合同企画を計画していること、メディ勉の FB サイト登録者 1200 人にアンケートを実施予定であることなどの説明があった。また、公益財団法人放射線影響協会より申し出のあった「日本の大規模コホート」への記事の掲載について、広報委員会において問題ないと判断されたため、ホームページの当該サイトへ掲載したとの報告があった。

5) JE 編集委員会の片野田新委員長より、次の報告があった。

- ホームページのリニューアルが完了し、Twitter を開始した。
- レガシー Epidemiological Studies シリーズを開始した。
- プレセミナーの Tutorial Paper を継続する予定である。
- International Advisory Board について、今後の連携可能な研究者紹介を依頼する形で感謝メッセージを送ることにする。
- 編集委員の交代は、以下のとおりである。（敬称略）
[終了]福島若葉、村上義孝、中村幸志、寶澤篤、Wanqing Chen、Peiyu Wang
[新規]大藤さと子、篠崎智大、杉山雄大、村木功、Changfa Xia、Defu Ma、大久保亮、大塚礼
- 投稿数は昨年と同ペースであり、年間掲載原著論文数が最大 80 編程度、採択率は 2 割前後を推移している。
- Supplement（福島の特集号）が 2022 年 12 月に発行されたが、アクセス数も多い。
- Instructions to Authors 改訂（2023 年 1 月に改訂）
- Impact Factor 2021 :
2 年値 3.809（前年 3.211） 5 年値 4.748（前年 4.139）
- Paper of the year(POY)、Best Reviewer 選考結果
[POY] “Serologic Survey of IgG Against SARS-CoV-2 Among Hospital Visitors Without a History of SARS-CoV-2 Infection in Tokyo, 2020-2021” by Takahiro Sanada et al.Yosuke Inoue, et al.
[Best Reviewer]
Dr. Masao Iwagami (University of Tsukuba)
Dr. Kyeezu Kim (Northwestern University Feinberg School of Medicine)
Dr. Yukiko Okami (Shiga University of Medical Science)

- 科研費 国際情報発信：①2022年9月 Twitter 開始（1/25：202 フォロアー）②自動投稿サービス Social Dog 契約 ③COPE の Dr. Liz Wager とコンサル契約
 - World Congress of Epidemiology 2024@ケープタウンのプログラム提案
学会誌のあり方について、これまでは将来構想委員会報告書に沿って国際的な質の高い学会誌を目指すという方針のもと進めてきたが、その方針を見直す機会も必要ではないかとの意見があった。
- 6) 国際化推進委員会の郡山委員長より、第33回学術総会（浜松）において、日韓台シンポジウムおよび国内在住外国人会員の集いを開催する旨の説明があった。また、第6回トラベルグラントについて、従来のトラベルグラントに代わり、「JEA Oversea Congress Grant」を設け、3名を選出したことが報告された。「JEA Oversea Congress Grant」は初年度会費と学術総会参加費を免除し、発表後6か月以内に Journal of Epidemiology へ投稿し採択された場合には、掲載料を免除するとの説明があった。
- 7) 疫学専門家委員会の活動について、尾島委員長および井上茂認定試験 WG 長より活動報告がなされた。
- 2022 年の上級疫学専門家認定の申請者は 30 名（うち同時申請者 28 名）で、合格者は 30 名である。また、疫学専門家認定筆記試験（2/3 実施）の受験予定者は 42 名である。
 - 井上茂 WG 長より、社会医学系専門医協会関係について、資格認定の状況について報告があった。
また、日本災害学会から Japan CDC に対し意見を述べる際に、日本疫学会も連名することが報告された。さらに、社会医学系専門医協会が社会医学系人材の活用の要望書を発出するにあたり、新型コロナウイルス感染症対策に対して日本疫学会が行った社会貢献について、その具体的な取り組みに関する情報を提供するとの説明があった。
- 8) 学術委員会の三浦委員長（疫学研究推進 WG 長）より、疫学研究推進グループ（放射線疫学推進グループ、出生コホートネットワーク）の活動状況について、報告があった。また、第33回学術総会において、メインシンポジウム「総合知活用に向けた疫学研究手法の展開」の開催について説明がなされた。
疫学教育推進ワーキンググループの本庄 WG 長より、第33回学術総会の初日に3つのプレセミナー2023が開催されたとの報告があった。

3. 第33回日本疫学会学術総会の準備状況について、尾島学会長より説明があった。
4. 第34回日本疫学会学術総会の準備状況について、三浦学会長より次の説明があった。①開催日時：2024年1月31日(水)～2月2日(金) ②会場：びわ湖大津プリンスホテル コンベンションホール淡海 ③開催形態：現地開催の予定（ハイブリッド開催も検討中） ④疫学が創る未来社会 ⑤参加者数（見込み）：1,000人 ⑥運営委託；株式会社コンベックス ⑦事務局長：原田亜紀子先生（滋賀医科大学 NCD 疫学研究センター）。
5. GMRC 制度委員会の活動について、（担当の内藤真理子先生からの書面報告について）玉腰理事長より次の報告があった。①GMRC 有資格者は、283 名（2023/1/26 現在）で、そのうち 45 名が日本疫学会会員である。②第 15 回 GMRC 認定制度講習会・試験が実施された。③GMRC 認定資格更新手続きが行われる予定である。④第 33 回日本疫学会学術総会への参加と関連行事等の受講によるポイント取得が可能である。
6. 学会事務局活動および庶務について、菊池事務局長より次の報告があった。
 - 1) 学会事務局活動
 - 会費・冊子代の請求書郵送（12/14）
 - ホームページの更新：事務局からのお知らせ、関連団体からのお知らせ、細則（改訂版）の掲載
 - 会計年度末締め、決算書（案）作成、監査準備、監査立会い（1/13）
 - 理事長ミーティング(11/6、12/5、1/13)
 - 社員総会準備（議事案作成、開催案内、委任状回収、配布資料、スライド準備）
 - 各種賞結果通知と授賞式準備
 - 学術総会準備
 - 第 1 回理事会開催準備（理事長・事務局長打合せ@Web 1/25）
 - 委員会活動の支援：JE 編集委員会（掲載料の請求、冊子注文受付、科研費管理）、疫学専門家委員会（資格審査 WG の Web 会議補助、認定筆記試験準備）、広報委員会（ニューズレター発行スケジュール管理）、選挙管理委員会（代議員の繰り上げ補充等、次期メンバーの調整補助）、国際化推進委員会（トラベルグラントの募集・選定に関する補助）
 - 関連団体への対応（日本医学会、日本医学会連合、日本医学会総会、全国公衆衛生関連学協会連絡協議会等）
 - 社会医学系専門医協会：専門医・指導医の単位取得のための受講証明書発行についての調整・確認

2) 庶務報告

- 会員数(2023年1月30日現在): 名誉会員: 33名、代議員: 211名、普通会員: 2,298名(合計: 2,542名)
 ※普通会員のうち2022年度入会学生: 84名
- 年会費納入状況(2022年1月30日現在): 2022年度会費の納入義務のある会員: 2,431名、2022年度までの会費納入完了者: 2,121名、87%)、2年以上(2020年度から)の滞納者: 206名
- 疫学会通信の発行回数(2023年1月1日現在): 57回

以上